

学習指導案 略案様式（特別の教科 道徳を除く）

2 年		1 組	指導者	〇〇〇〇		教科等	数学科
単元	単元名等		場合の数と確立				
	目標		評価規準		※どちらかを選択し、 <u>で囲ってください。</u>		
	知識及び技能		知識・技能		○場合の数を基にして得られる確率の必要性和意味を理解することができるようにする。 【D（2）ア（ア）】 ◆簡単な場合について確率を求めることができるようにする。 【D（2）ア（イ）】		
	思考力、判断力、表現力等		思考・判断・表現		○同様に確からしいことに着目し、場合の数を基にして得られる確率の求め方を考察することができるようにする。 【D（2）イ（ア）】 ○確率を用いて不確定な事象を捉えて考察し説明することができるようにする。 【D（2）イ（イ）】		
	学びに向かう力 人間性等		主体的に学習に取り組む態度		○場合の数を基に得られる確率のよさを実感して粘り強く考え、不確定な事象の起こりやすさについて学んだことを生活や学習に生かそうとするようにする。		
	単元の学習展開（全 6 時間）						
	導入		□単元の学習計画を確認し、学習の見通しを持つ。 ・ 2 枚の硬貨を投げる場面において、3 通りの面の出方について疑問を持つ。 ・ 多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、場合の数を元に得られる確率の必要性和意味を理解する。				
	展開		□数学的活動を通じて確率について理解し、不確定な事象を捉え考察し表現する。 ・ 確率の性質を理解し、余事象の考え方をを使って確率を求める。 ・ 並べ方（順列）や組み合わせ方による確率を求める。 ・ 不確定の事象に関する問題を、確率を用いて考察しその結果を説明する。				
	終末		□単元全体を振り返り、確率について分かったことやもっと知りたいことをまとめる。 ・ 本章の振り返りと確かめの問題を解く。 ・ 「確率」と日常生活や社会との関係に興味を持つ。				
本時 （4 / 全 6 時間）	ねらい	場合の数を基にする確率について、同様に確からしいことに着目しながら確率の求め方を考察し、樹形図や二次元の表などの数学的な表現を用いて説明し伝え合うことを通して、 <u>求めることができるようにする。</u> (下線部…単元の評価規準との関連【◆知・技 評価問題】)					
	学習過程	「めあて」 「確率を求めることができるようになろう（組み合わせ）」 『課題』 『並べ方（順列）との違いは何か』 『まとめ』 『同じ組み合わせ（重なり）があるので、樹形図や二次元の表の段階で「重なり」を消す必要がある』 「振り返り」の視点 ・ 評価問題を解く ・ わかったことやできるようになったこと					
	努力を要する状況に立て児童	【予想されるつまずき】 ・ 樹形図を正確に書くことができない。 ・ 組み合わせにおいて、樹形図上で同じ組み合わせとして消すことがわからない。		【必要な支援・手立て】 ・ 途中まで書いた樹形図を準備し、その仕組みを押さえて続きを書かせる。 ・ 実際に 2 個同時にひかせて、引いたものに順番が付けられない（同じ組み合わせである）ことに気づかせる。			